

【前期】

東洋への愛

《北京風景》(部分) 写生 昭和18年(1943) 山口蓬春写生展



【中期】

蓬春モダニズム

—観たまま、感じたまま、知ったまま—



《望郷》(部分) 第9回日展 昭和28年(1953) 個人蔵

山口蓬春 美の履歴

第II期 発展

山口蓬春没後50年・記念館開館30周年記念特別展

2021年4月10日(土)▼9月26日(日)

2021

50th
山口蓬春没後50年

30th
記念館開館30周年

記念特別展

【後期】

日本画家・山口蓬春のルーツを探る



《扇面流し》(部分) 昭和5年(1930) 第10回新興大和絵会展

【前期】

東洋への愛

会期:2021年4月10日(土)～5月9日(日)

休館日:毎週月曜日(5月3日を除く)、5月6日(木)

すぐれた古美術のコレクターとしても知られる蓬春。中でも東洋美術への深い探究心は、自身の画風の変遷を経ようともますます深まり、情熱の火は終生絶えることはありませんでした。その美の遍歴は大正末年頃から古美術専門店において磁州窯、俑などの古陶磁を求めることに始まっています。新しい日本画の創造をめざし、昭和初期に始めた中国宋元画の学習を発端とし、朝鮮への旅、そして戦中には美術審査員として台湾、さらに中国各地への赴任を経て東洋の美への幅広い知識を持つようになります。彼の地で目にする数々の美術品によって、蓬春の審美眼はますます磨かれていきました。

昭和31年には北京の雪舟等楊迦世四百五十周年記念式典に日本代表として参列、約2か月にわたり北京、大同雲崗石窟などを視察・写生し、その体験は蓬春芸術に精神的な奥行きを与えました。本展では蓬春が蒐集した東洋美術の精華をご覧いただき、その深く清冽な愛を探ります。



《北京風景》写生 昭和18年(1943) 山口蓬春写生展



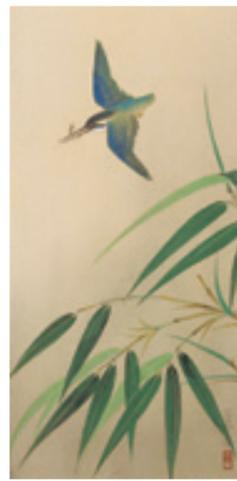
《天壇》写生 昭和18年(1943)



《嘉靖方壺》写生 昭和32年(1957)



《瓶花》(部分)
大正12-13年(1923-24)



《首夏》(部分)
昭和4-5年(1929-30)



伝 土佐光吉《十二月月風俗図》四月花売り 重要文化財
16世紀



《三彩立女俑》
中国・唐時代



《大同雲崗にて》写生
昭和31年(1956)
山口蓬春写生展

【中期】

蓬春モダニズム—観たまま、感じたまま、知ったまま—

会期:5月16日(日)～7月25日(日)

(前期:5月16日～6月20日、後期:6月22日～7月25日) 休館日:毎週月曜日

東京美術学校西洋画科に進んだ蓬春。二科展に入選するなど順調な一歩を踏み出したものの、指導教官の一言から自らの日本画への可能性を見出し、悩んだ末に日本画への転身を果たします。その絵の魅力は洋画を学ぶ上で培われた確固たるデッサン力と日本画ならではの素材の活かし方、さらに天性のモダンな感覚が相まって発揮されています。

「構想には自然に直面して、自然から受けたその場の感動が画因になって構想を生む場合と、頭の中で一通り纏めた考へによつて、自然の中から一つの構想を探し出す場合もある。」(『美術大講座 日本画科 第4巻 風景画実習』昭和13年)と述べているように、蓬春芸術にみる理知的な思想は、戦後の新しい時代を迎えることで、画面の随所に現れてゆきます。

本展では昭和20年代の新たなページとなった「蓬春モダニズム」と形容される作品を中心に、蓬春の美への飽くなき追求の過程を探ります。



《緑陰》昭和25年(1950) 株式会社歌舞伎座蔵



《望郷》第9回日展 昭和28年(1953) 個人蔵



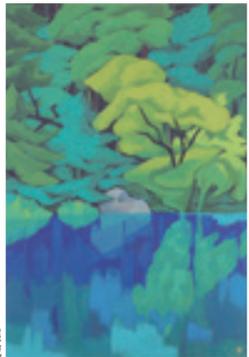
《夏の印象》第6回日展 昭和25年(1950) 個人蔵



《錦秋》昭和11年(1936)
三井住友銀行蔵



《秋果》昭和35年(1960) 三井住友銀行蔵



《青沼新秋》第10回日展
昭和29年(1954) 個人蔵

【後期】

日本画家・山口蓬春のルーツを探る

会期:8月7日(土)～9月26日(日)

(前期:8月7日～8月29日、後期:8月31日～9月26日)

休館日:毎週月曜日(8月9日、9月20日を除く)、8月10日(火)、9月21日(火)

大正7年、東京美術学校日本画科に転科した山口三郎(のちの蓬春)は、雅号を「蓬春」とし、日本画家としての道を歩み始めました。大正12年に同校を首席で卒業後、指導教授であった松岡映丘を盟主とする新興大和絵会を活躍の舞台とします。東京美術学校が新たな美術教育制度の変革を遂げる中、網羅的に収集された古美術の数々を臨模することでその技術は錬磨されてゆきます。また京都に暮らし、季節の風物を間近に感じる体験も蓬春芸術の糧となりました。

本展では当館が収蔵する、東京美術学校時代から新興大和絵会時代までの作品を一堂に会し、大正末から昭和初期にかけての蓬春の歩みを辿ります。



《山路》昭和2年(1927) 第7回新興大和絵会展



《初夏の頃(佐保村の夏)》
大正13年(1924年) 第4回新興大和絵会展



《木場》大正14年(1925)
新興大和絵会同人合作
「東都近郊十二景」のうち



《扇面流し》昭和5年(1930)
第10回新興大和絵会展



《飛天》昭和5-6年(1930-31)



《緑庭》昭和2年(1927) 第8回帝展



《武陵桃源》(部分) 昭和2年(1927)
第7回新興大和絵会展



依屋宗達《伊勢物語色紙》17世紀後半



尾形光琳《飛鴨図》
江戸時代 18世紀

山口蓬春(1893-1971)が77年にわたる生涯を閉じてから今年で50年を迎えます。日本画の世界を一新した蓬春の功績は後進世代に引き継がれ、現代にも息づいています。蓬春作品や蓬春により蒐集された美術品を長年にわたって守り続けた春子夫人(1899-1991)の意向を受け、平成3年(1991)、葉山の旧邸跡に山口蓬春記念館が開館しました。以来、蓬春作品と愛蔵の品々の展示、資料の調査・研究を通じて蓬春の人間像に迫ると同時に、夫妻が愛でた庭園や創造の場となった画室を含む家屋の整備、ならびに収蔵品の修復等により、蓬春の生きた時空間を感じていただける記念館を目指してまいりました。

令和3年10月に30周年を迎える当館では、改めて蓬春の画業を検証

山口蓬春略年譜

- 明治26年(1893) [0歳]
北海道松前郡松城町に生まれる。本名・山口三郎。
- 大正4年(1915) [22歳]
東京美術学校西洋画科に入学。
- 大正7年(1918) [25歳]
東京美術学校日本画科の専科に合格。入学後本科に転科。この頃、雅号を「蓬春」とする。
- 大正12年(1923) [30歳]
東京美術学校日本画科を首席で卒業。松岡映丘を指導者とする新興大和絵会の同人となる。
- 大正15/昭和元年(1926) [33歳]
第7回帝展に『三熊野の那智の御山』を出品。特選となり、第2回帝国美術院賞をも受賞。作品は皇室買上げとなる。齋藤春子と結婚。
- 昭和5年(1930) [37歳]
日本画家の福田平八郎、中村岳陵、洋画家の牧野虎雄、中川紀元、木村荘八らとともに六潮会を結成。
- 昭和7年(1932) [39歳]
朝鮮に旅行し慶州仏国寺、京城、平壤、楽浪などに滞在して写生。
- 昭和11年(1936) [43歳]
初めての個展を日本橋三越で開催。
- 昭和13年(1938) [45歳]
台湾総督府主催の第1回台湾美術展覧会の審査員として台北に赴く。
- 昭和17年(1942) [49歳]
陸軍省から南方に派遣され、サイゴン、香港、広東などに約3か月滞在。
- 昭和22年(1947) [54歳]
疎開先の山形県から引き揚げて神奈川県葉山町堀内に仮住まいをし、翌年葉山町一色に転居。終の住処となる。
- 昭和25年(1950) [57歳]
日本芸術院会員に任命される。
- 昭和26年(1951) [58歳]
美術出版社より著書『新日本画の技法』が刊行される。
- 昭和28年(1953) [60歳]
第9回日展に『望郷』を出品。吉田五十八の設計による画室を自宅に新築。
- 昭和40年(1965) [72歳]
文化勲章を受章。
- 昭和43年(1968) [75歳]
皇居宮殿正殿松の間杉戸(欄)が完成。
- 昭和46年(1971)
葉山の自宅で生涯を閉じる。



新興大和絵会の同人たちと大正末から昭和初期



民族衣装の少女と春子夫人をスケッチする蓬春昭和6-7年 平壤にて



葉山旧画室にて 土門拳撮影昭和23年頃



雪舟等楊逝世四百五十年周年記念式典にて参列昭和31年 北京にて

山口蓬春没後50年・記念館開館30周年記念特別展

—第Ⅱ期 発展— 山口蓬春 美の履歴

前期:4月10日(土)~5月9日(日)
中期:5月16日(日)~7月25日(日) 夏季整備休館:7月26日(月)-8月6日(金)
後期:8月7日(土)~9月26日(日)

※今後のコロナ禍の状況により、展覧会開催状況等の内容が変更となる場合もあります。当館ホームページ等最新情報でご確認ください。
※会期中に一部展示替えを予定しております。
※展示作品は都合により一部変更することがあります。
※所蔵表記のないものは当館所蔵になります。

開館時間 午前9時30分~午後3時30分(入館は午後3時まで)

休館日 毎週月曜日(5月3日、8月9日、9月20日を除く)、5月6日(木)、8月10日(火)、9月21日(火)

入館料 一般/600円(高校生以下は無料)
(税込み) 団体割引/100円割引(20名以上の団体で1週間前までに予約した場合)
障がい者割引/100円割引(同伴者1名を含む)
連携館割引/100円割引

※連携館:葉山しおさい公園・博物館(大人券のみ)、神奈川県立近代美術館 葉山(企画展の一般券・学生券のみ)
※当館を何度でもご覧いただけるお得な年間入館券1,800円(発行月から翌年の同月末日まで有効)を発売中

主催:山口蓬春記念館・公益財団法人JR東海生涯学習財団
後援:神奈川県教育委員会、葉山町教育委員会

し、とりわけその魅力を余すところなく紹介する特別展を開催いたします。

特別展の「第二期 発展」にあたる本展では会期を3つに分け、まず前期は蓬春コレクションより東洋美術の品々をご覧いただく「東洋への愛」、次に中期は普段見ることのできない秘蔵コレクションが葉山にやってくる「蓬春モダニズム—観たまま、感じたまま、知ったまま—」、後期では蓬春の画家としての原点を探る「日本画家・山口蓬春のルーツを探る」とそれぞれのテーマから蓬春の「美の履歴」を辿ります。

遠く伊豆大島をのぞみ、背後に大峰山を背負うこ葉山一色の山口家旧邸にて、現代の日本画につながる道筋を示した数々の名作をどうぞご堪能ください。

関連イベントのご案内

国際博物館の日

内容 国際博物館会議(ICOM)では、5月18日を「国際博物館の日」とし、博物館が社会に果たす役割について広く市民にアピールしています。当館でもこれを記念して、当日来館された方全員にオリジナルグッズを差し上げます。

日時 2021年5月18日(火)

展示解説

内容 展示の見どころを学芸員が解説します。

日時 2021年4月18日(日) 13:30~(約20分)
2021年6月20日(日) 13:30~(約20分)
2021年8月15日(日) 13:30~(約20分)

定員 先着5名
集合 開始時間までに受付手続きをお済ませの上、受付前にご集合ください。

子どもと大人のための美術に親しむ教室

内容 日本画で使用する岩絵具や膠(にかわ)を使って絵を描きます。

日時 2021年6月5日(土) 13:00~16:00

場所 山口蓬春記念館 別館 多目的室

講師 当館学芸員

対象 小学校5年生~中学生と保護者にあたる大人の方

参加費 無料

定員 5組10名(応募者多数の場合は抽選)

締切日 5月24日(月)

申込み はがき又はFAXに住所、氏名(ふりがな)、電話番号、学校名・学年、イベント名を明記の上、お申込みください。

第58回 葉山特別見学会

内容 葉山町にある博物館・美術館を学芸員の解説付きでご案内いたします。

日時 9月予定 9:30~14:30

場所 葉山しおさい博物館・山口蓬春記念館・神奈川県立近代美術館 葉山

費用 無料

定員 12名(応募者多数の場合は抽選)

申込み 詳細は当館ホームページをご覧ください。

※イベント等は中止になることがあります。最新情報は当館ホームページをご覧ください、お電話にてお問合せください。

次回展示のご案内

山口蓬春没後50年・記念館開館30周年記念特別展
—第Ⅲ期 昇華—
山口蓬春芸術の神髄 —四季の連作と皇居宮殿の杉戸絵—
2021年10月2日(土)~11月28日(日)



【交通案内】

JR横須賀線・湘南新宿ライン「逗子駅」より京浜急行バス3番乗場、又は京浜急行線「逗子・葉山駅」南口2番乗場より「海岸回り葉山行(逗12)」か「海岸回り葉山福祉文化会館行(逗11)」にて約20分「三ヶ丘・神奈川県立近代美術館前」下車徒歩2分。※専用駐車場はございませんので、周辺の駐車場をご利用ください。よろしくお願いいたします。

HP <http://www.hoshun.jp/>
FB <https://www.facebook.com/yamaguchihoshun>
〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2320
TEL:046-875-6094 FAX:046-875-6192

